

令和4年度 佐久市総合計画審議会第2部会（第1回） 会議録

日時：令和4年8月9日（火）

午前10時～11時30分

場所：佐久市役所議会棟第2委員会室

【出席者】相馬部会長、丸山副部会長、高橋委員、田村委員、  
金澤委員、臼田委員、工藤委員、矢羽田委員、山崎委員

【事務局】木内企画課長、安井企画調整係長、井出主任、金澤主任、小林主任

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（竹重委員、小出委員）

2 議事

（1）第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について  
質疑、意見

事務局	初参加の委員さんもいらっしゃるため、まず簡単に総合戦略の概要について説明し、その後調査報告書の説明に入る。  ①総合戦略概要について説明 ②基本目標2「佐久市を知って、来て、住みたくなる佐久市における『ひと』の創生」及び地方創生推進交付金事業について説明
部会長	基本目標2について、ご質問等ありますか。
委員	東京などに佐久市のアンテナショップのようなものはあるか。長野県のアンテナショップが銀座にあるのは知っているが、市としてやっているか。
事務局	佐久市単独としてはない。常設型で設置する予定は今のところない。
委員	ビジネスとして成り立たてば、経済的にやってもよいと思う。意見としてご検討いただきたい。

部会長	佐久市がシティプロモーションアワードを受賞したのか。
事務局	リモート市役所の取組で受賞をした。自治体の運営するオンラインサロンとしてかなり好評で、参加者も 1600 人にのぼっている。シティプロモーションアワードを受賞して、先日表彰式があった。
委員	基本目標 2 の「佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における人の創生」について、令和 3 年の数値目標の実績が 651 人で順調ということだが、この 651 人の年齢別のデータは分かるか。例えば、大概がもう引退して会社も終わって、終の棲家を見つけてこちらへ来るのか、それとも佐久へ来て働きたいのか、これがわからないと手を打つことができないと思う。
事務局	先ほどのデータは佐久市全体の移住者数であるが、実は移住者数の半分は長野市や上田市、小諸市など長野県内の移動。次に 1 都 3 県からの移住が多い。年齢層についてのデータはない。
委員	県内からの移動は移住になるのですか。
事務局	転入という視点のデータなので、資料に書いてある移住者の定義には含まれてこないかもしれない。今年度からアンケートを取って、移住者とそれ以外といった形で峻別をして、今後どういう施策を打っていくかについては検討中である。10 万人規模の都市であれば、1,000 人からアンケートを取ればそこまで誤差はないだろうということで行っている。
委員	移住者への施策は何年も前からやっていると思うが、その中で住むのをやめて戻ってしまう人がどのぐらいいるかを見ておかないといけないと思う。人がずっと増えている、ということではないと思う。
事務局	どういった理由で佐久市を出たのか、例えば進学であったり転勤であったり、転出者のアンケートはこれまで取って来なかった。そういったところも本年度から実施を検討している。

委員	例えば、佐久市が奨学金を作って、進学で東京へ行って、佐久市に戻って最低10年勤めれば奨学金は返さなくていいとか、いろいろな施策はあると思う。
事務局	大変貴重な意見だと思う。転入者や転出者は、どういった意向で転入あるいは転出したのか、また年齢層といったところも把握する中で、今後の施策展開を検討できればと思う。
委員	佐久市は昔、緑と清流の里と言われてきたが、今は千曲川で鮎も釣れない。佐久市もそこら辺のことをよく考えて、川の再生も検討してもらいたい。
委員	先ほどの転入者の実績数は「人」であったが、世帯数は分かるか。
事務局	確認して、次の会議で回答する。
委員	資料の17ページの「シル」の推進のところで、メディアの活用などでプロモーション費用は、年間の総額でいくらぐらい使っているか。
事務局	資料に記載の①～③までの事業で、年間だいたい2,000万円くらいである。
委員	シティプロモーションにもっと投資してもいいと思う。また、アンテナショップは県のショップを活用するのではなく、市独自でも十分できると思う。市がアンテナショップの運営事業者を募集して、市がその事業者に資金を貸して、それを運用し回収すればプラスのお金は使わない。ただそれを誰がやってくれるか、人材ですね。そういうのをやった方がいいと思う。
事務局	今後、市のプロモーションというのは重要なことで、それが社会増、人口増加にも直結していくと思うため、色々ご意見をいただきながら検討したいと思う。
委員	資料を読ませていただいて思うのは、「稼ぐ」という考え方が総

	<p>合計画に入っていない。歳入をどう増やすかが入っていないと感じた。企業であれば絶対に歳入を増やすことを考える。例えば市の中に投資をする部門をつくるとか。</p>
事務局	<p>業務としては、市にも基金があり、それを30年など長期運用することなどもやっている。基金の運用のほかにも、ふるさと納税制度もある。各自治体間で競争的な形で行っており、こちらも歳入に直結するもの。ふるさと納税の収入も、年々全国で増えている。佐久市としても、なるべくプロモーションをしてそういうものも獲得しようと努力している。また、佐久平駅南地区で土地区画整理事業をしているが、そこに企業が入っていろいろお店ができるなどもあり、色々なところで歳入確保に向けた努力をしている。</p>
部会長	<p>民間と違うのは、やはり市の全体の予算を見ると、地方交付税の割合が多いため、どうしてもそちらの方に行ってしまう、自分で資金運用して利益を出すとか、収益事業をやるというのはちょっと酷なところがあるような気がする。</p>
事務局	<p>市も人口が減ってどんどん税収が減っていくので、移住者を増やして税収を増やしたりとか、佐久市に仕事をつくって働いてもらったり、企業に来てもらって法人税を納めてもらったりなど、税収を確保しなければいけない。</p>
委員	<p>移住はなかなか難しく、今、説明していただいたように住民の転入、転出しか統計的には数えられない。一番人口の増減が出てしまうのが18～20歳で、高校生が大学に行っても住民票を移さない人は残っているけれど、移した人は転出で数えられてしまう。その転出した人が大学を卒業して戻って転入となったとき、その人は移住者として数えるのか。その辺は、自治体の考え方で違いが出てしまう。移住者かどうかは別にして、住民の移動を調べると学生時代、18～22歳の減を除くと、全体的に30代から40代までの子育て世代のところと、60代以降の第二の人生のところとで、二つ山になる。前年のデータを見ると、大体同じぐらいの山の大きさ。昔はリタイヤして移住するということろであったが、近年の特徴とすると30代から40代の子育て世</p>

	<p>代の移住が増えてきている傾向があるので、佐久市さんとしてはそこを目標に立てている構造なのかと思う。ただ、統計的になかなか追い切れないので、県も市町村にお願いして、転入届を出してきた人に任意で「あなたはIターンですか。Uターンですか。」みたいな追加アンケートを行っているが、やっている市町村とやっていない市町村があって、全県として統計的に捉えることができない。資料で、300人ずつぐらい増となっていて、佐久市さんはここ2年くらいすごく増えている。コロナの影響なのか、これまでも県外からの移住だけを見たときにプラスの方であったが、プラスの幅がかなり拡大している。</p> <p>加えて、アンテナショップの提案があったが、高い賃料のところで収支のバランスを取るというのは、県でもかなり苦勞している。テナント料の部分は一般財源を持ち出しながらやっている。他の市町村においても、一時的に儲けることはできるが、なかなか稼ぎの収入の部分と賃料のコストを埋め合わせることが上手にできていなくて、長続きしないのが現状。例えば、佐久市で、飲食店をやってらっしゃる方と協力してやるなど、収入基盤を確保しながらやらないと難しいと感じる。</p>
委員	<p>ビジネスのプロを入れなくてはダメだと思う。</p>
委員	<p>長野県でも民間の経営アドバイザーに入ってもらいながらやった。おっしゃる通り、今の行政では税金だけでは成り立たないので、特にこういった新しい取り組みにいろんな人に関わっていただかなければいけない。</p>
委員	<p>ショップの基盤収入を、何に求めるかが重要。佐賀県は非常にうまくやっていて、高級なステーキハウスに、大勢のお客さんが入っている。それでいろいろな運営費も賄っていて、非常に儲かっている。</p>
部会長	<p>他にご意見はよろしいですか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>
部会長	<p>他に何かご意見等ありましたら、後ほど事務局の方にお寄せく</p>

	<p>ださい。続きまして基本目標4、「多様な職場、多様な働き方から始める佐久市における仕事の創生」につきまして事務局から願います。</p>
事務局	<p>②基本目標4「多様な職場、多様な働き方から始める佐久市における仕事の創生」及び地方創生推進交付金事業について説明</p>
委員	<p>資料の中に目標値とありますけど、この目標値は何を基準に数値を設定しているか。</p>
事務局	<p>それぞれの事業によって違うが、過去の実績の結果などを勘案して設定している。また、最終的な目標値を決める中で、今年度についてはそれまでの段階的な上がり具合を加味して、目安値ですが、設定させていただいている。また、施策の進捗管理のため、指標として使っている。</p>
委員	<p>今はコロナ禍という中で、テレワークをするためにワークテラスさんなどが利用されている。私の姪がこの前来まして、「明日こっちにいるんだけど、会社に行かなくてもいいのでどこかないかな」って探していた。ただ、コロナが収束したら、それがどう変わるかという危惧もある。その中でSOIC、佐久産業支援センターはできて5年ぐらいですが、大変いろいろな部分で佐久市の企業を支援しておりますので、ぜひSOICには絶大な協力をお願いして伸ばしていけるようお願いしたい。</p>
委員	<p>佐久臼田インター工業団地に立地を予定している企業4社で、新規の雇用は何人ぐらいに増えるか。</p>
事務局	<p>それぞれの企業の雇用計画があるので、次回までに確認する。</p>
委員	<p>新規雇用といっても、人がいないところで取り合いになる場合もあるのでそれも気をつけないといけないと思う。</p>
部会長	<p>他に何かございますでしょうか。</p>
委員	<p>2 ページに目標値があって、その実績値として補助金の交付件</p>

	<p>数がありますが、目標値より多くなった場合、予算はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>15 件の交付実績となっていますが、1 件いくらという補助金ではなくて、その内容によって補助金の金額も違う。予算の範囲内で、目標値を設定している。</p>
委員	<p>あと、新規企業が入ってきたときに、佐久市内の企業であれば安心していいと思うが、外部から入ってくる企業を受け入れる規定という指標は何かあるか。県外から佐久市に来る場合、認可する基準というものはあるか。</p>
事務局	<p>佐久市の工業団地は、条件を設定し、募集をしている。</p>
部会長	<p>市の工業団地以外や補助金を使わずに企業が進出するのは自由である。</p>
委員	<p>26 ページを例にして、指標の取り方で累積値を指標としているが、そのときの評価の仕方というのは累積値を見て評価しているか、単年度での実績で評価しているかがよく分からない。一番上にあるヘルスケア製品だと、R6 の目標値 15 件を累積が達成しているので、今後 R6 まで新規がゼロでも累計が達成しているので順調と評価するのか、または新規 0 件なので努力を要すると評価するのか、いまいち評価基準が明確でないように思う。</p>
事務局	<p>KPI に関しては、実績を見て、目標値を改定する必要がある。このヘルスケア産業については既に達成してしまっているので、今年度以降、実績に応じて目標値の改定をしていくということを考えている。他の指標で達成してない部分は、目標値を大きく設定してしまったので、少し縮小する、もしくは予算を追加してさらに新規事業を追加して強めていくかというところを検討している。</p>
委員	<p>もう一つ、26 ページに、R2 の実績が 11 社あったとある。市の事業が過去 5 年間、2.66 件だから、年間 3 件に設定している、市の事業の予算枠とすると、もっと 7 件とか 8 件とかいう指標設定</p>

事務局	<p>で予算を確保してあったから、数値が出ているというふうに思うが、ひっくり返すと本当にそれを指標として図っていて有効なのかと思う部分があるんです。指標を設定するのはいいが、それを上回る事業規模の予算を確保していれば、自動的にみんな順調という結果が出る指標になってしまっていて、本当に大きな基本目標を図ることができるのかっていうパラドックスみたいなのがあると感じる。</p> <p>この指標を達成したからといって、目標を達成したというわけではないので、全体のバランスをよく見て考えていきたいと思うが、なかなか難しいところ。</p>
部会長	<p>予算は多くないと思う。</p>
委員	<p>実はもっとニーズがあるが、予算が少ないのか、あるいはこまめな補助金が多く欲しいのか、それとも大規模に補助金があった方がいいのかといった部分の議論の方が価値がある。だから、数だけ比較して順調といっても本当にそうなのかみたいなことを感じる。KPI 調べてやるとマクロの数字が順調か順調じゃないか議論して、大枠が順調なのかっていうのが全くわからないことがある。</p>
部会長	<p>SOIC の場合、補助金を多くいただいている印象はない。</p>
委員	<p>SOIC は補助金の交付を受けているが、今、SOIC は、個別の事業により自分たちで稼ぎ出しているため、これがもう少し大きくなればいろいろなことができると思う。</p>
部会長	<p>この辺は難しいと思う。企業もそうですけど、研究開発のところにとどのぐらい予算を組むか、いきなりこの事業がビジネス化しているかどうかと言われると難しい。</p>
委員	<p>企業といってもいろいろ個性があるので、集中投資でやるのか、ハイリスクハイリターンでやるのか。ローリスクハイリターンでやっても調子が良すぎてあまりシナリオにならない。求めるなら、ハイリスクハイリターンっていうのも良いと思う。これは</p>



部会長	<p>捨て金だと思ってやる構えでやらないと。やっぱり集中投資は必要。佐久平ももっとエリアを大きくしてやっつけていいと思う。エリアを特徴づけて、そこから収益をどう上げていくかが課題だと思う。</p>
委員	<p>他にございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
部会長	<p>それでは時間の予定もございますので他にご意見がありましたら、事務局に個別にご連絡いただければと思います。</p> <p>基本目標 2、基本目標 4 及び地方創成推進交付金につきまして、本日出されました意見は事務局でとりまとめまして、次回以降の部会で皆様にお示しして確認いただく形をとりたと思いますので、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>

(2) その他

部会長	<p>(2) その他について、事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>次回の開催は、8月23日(金)13時30分から、第二次佐久市総合計画前期基本計画2章の審議を予定。</p>
部会長	<p>それでは、以上で本日の全ての審議が終了となります。</p>

3 閉会

(確認事項)

○人口の社会動態の増加数の詳細について

- ・人口の社会動態の増加数については、長野県の毎月人口移動調査の結果によるものであり、年齢や世帯の内訳については公表されていないため分からない。  
なお、市の住民基本台帳では、転入者は20代・30代が多く転入してきている。

○佐久臼田インター工業団地の新規の雇用者数について

- ・立地を予定している企業4社合計で116人を雇用する計画。内訳としては、新規雇用が39人、市内からの転勤が41人、市外からの転勤36人で計16人を雇用する計画である。